

**令和元年度第1回
清瀬市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)評価策定委員会**

■ **開催報告** ■

一、日 時 : 令和元年 8 月 29 日(木) 18 時～20 時

二、場 所 : 清瀬市役所4階第1・2委員会室

三、出欠席

委員: ※敬称略

| | | 所 属 |
|----|---------|------------------------|
| 出席 | 石井 久恵 | 一般公募市民 |
| 出席 | 今井 幸子 | 清瀬市民生委員・児童委員協議会 |
| 欠席 | 大島 千帆 | 埼玉県立大学 准教授 |
| 出席 | 木元 祥恭 | 一般公募市民 |
| 出席 | ○ 小滝 一幸 | 社会福祉法人東京聖労院 常務理事 |
| 出席 | 島田 尚範 | 一般社団法人東京都清瀬市歯科医師会 監事 |
| 出席 | ◎ 下垣 光 | 日本社会事業大学 教授 |
| 出席 | 土屋 テル子 | 一般公募市民 |
| 出席 | 中島 美知子 | 一般社団法人清瀬市医師会 理事 |
| 出席 | 中原 輝子 | 清瀬市シニアクラブ連合会 副会長 |
| 出席 | 中村 美紀 | 訪問看護ステーションあゆみ 管理者 |
| 出席 | 羽田 ゆかり | きよせ清雅地域包括支援センター センター長 |
| 出席 | 星野 孝彦 | 社会福祉法人清瀬市社会福祉協議会 事務局次長 |
| 出席 | 村上 真 | 救世軍恵泉ホーム・ケアハウスいずみ 施設長 |
| 出席 | 山口 政子 | 一般公募市民 |

◎委員長 ○副委員長

事務局: 渋谷市長、健康福祉部長 八巻、地域包括ケア推進課長 伊藤、高齢支援課長 西川、地域包括支援センター長、森田、管理係長 高橋、介護サービス係長 山口、高齢福祉係長 岸、管理係主任 齋藤

地域計画(株): 前原、橋本

四、次第

1 清瀬市長あいさつ

- 2 委嘱状交付
- 3 委員紹介
- 4 配布資料の確認
- 5 事務局からの説明
 - ・清瀬市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)評価策定委員会設置要綱について
 - ・清瀬市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)評価策定委員会の傍聴に関する取扱いについて
- 6 委員長および副委員長の選出および就任の挨拶
- 7 議題
 - 【報告事項】高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画の概要および清瀬市の介護保険の状況について
 - 【検討事項】アンケート調査の調査項目について
- 8 次回委員会の開催予定について

五、配布資料

- 【資料1】清瀬市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)評価策定委員会名簿
- 【資料2】清瀬市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)評価策定委員会設置要綱
- 【資料3】清瀬市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)評価策定委員会傍聴に関する取扱いについて
- 【資料4】清瀬市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画【概要版】
- 【資料5】清瀬市の介護保険の状況
- 【資料6】清瀬市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画の策定にむけて
- 【資料7】令和元年度評価策定委員会開催スケジュール及び審議内容(案)

■ 議事要旨 ■

開会

事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまから、令和元年度第1回清瀬市高齢者保健福祉計画介護保険事業計画評価策定委員会を開催させていただきます。

1. 清瀬市長あいさつ

市長

お集まりいただきありがとうございます。人生100年時代に向かって、制度・システムをしっかりと築いていく。更に組織と組織のつながり、あるいは組織と人とのつながり、地域社会とのつながり、そういうことをしっかりと築き上げていけば、人生100年時代なら清瀬市の

方が良いというような、輝く清瀬をつくっていきたいと思っております。今の課題で一番難しいことの1つは、人生100年時代のことですが、色んな本が出てきています。日本に来て20年位経っている、ドラトーズンというフランス人の女性は、『フランス人は年をとるほど美しい』という本を書いています。他にも『100歳の精神科医が見つけた『心の匙加減』という本は、高橋幸枝という女性、100歳で現役の方です。あとは、NHKの下重暁子さんは、『年齢は捨てなさい』という本を書いています。100歳に向かって開拓している人が、自分の信念を本にしてくれています。清瀬には、ラジオ体操で約250人の会員がいますが、最高齢は94歳の女性です。先日、ヒマワリ畑でも82歳の女性が話しかけてきて、「私は怒っています。ボランティアで手伝っているのに、もう年齢だからボランティアが難しいと言ったら、市の職員からそうですねと言われて、とても腹が立ちました」と。もう年だからと控えめにおっしゃられたとしても『そんなことを言わないで、お願いしますよ』と言って元気づけていかなければいけないのに、簡単にそんなことを言うものではないよと、職員に言うおきますから」と、そんなこともあり、明日は老人ホームの作品展をしっかりと見させてもらいますが、好きなことに打ち込むと、90歳を超えても書道や編み物などまだまだすごいです。陶芸会も160人くらいいるそうです。70歳、80歳になってから、すごくいい作品を作り出され、様々に打ち込んでいる人がいて、大変ありがたいと思っています。

清瀬市の役割は、今ブラジルで日本の20倍の森林が燃えて、自然災害が大きく立ちはだかっている時に、東京管区气象台が7月16日から清瀬の気象衛星センターで仕事を始めています。130人の気象衛星センターの職員に加えて、新たに気象庁本庁から130人が移ってきました。東京管区气象台というのは、東京都以外に、新潟や福井県なども含めて、15県の气象台をまとめ上げてきています。そのようなすごい施設が、しかも自然災害が、今九州で大変な状況になっている、そういう時に、管区气象台が清瀬に移ってきました。清瀬はすごい役割を担っていると思います。

山形県の大月市で、市長会があり行ってきたのですが、大林組が大月にバイオマスの発電所、約3万世帯の電気を発電しています。やはり温暖化に向けて、化石燃料ではなく、枯木などを使って発電している、そういうことにチャレンジしています。

日本人の癌の恐ろしさ、苦痛から解放したのは、ここにおられる中島先生です。モルヒネを痛くなってから打つのではなく、モルヒネを定期的に飲む。打つのではなく、シロップで飲むような取組はイギリスから始まりましたが、日本で初めて、そういう取組みをしたのは、東京病院におられた中島先生です。

時代に向かって行く清瀬の力というのは、様々にすごい力があるということで、人生100年時代も清瀬からしっかりと、100歳になっても楽しい人生を送れるということを示していきたいと思っております。そのためには細かな制度的なシステムを築き上げていくことが重要ですので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

2. 委嘱状交付

- － 机上配付にて、委嘱状を交付

3. 委員紹介

- － 名簿順に自己紹介
- － 市の関係部課、事務局の紹介

4. 配布資料の確認

- － 事務局より配付資料の確認

5. 事務局からの説明

- ・清瀬市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)評価策定委員会設置要綱について
- － 資料2について事務局より説明
- ・清瀬市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)評価策定委員会の傍聴 に関する
取扱いについて
- － 資料3について事務局より説明。委員より承認を得る。

6. 委員長及び副委員長の選出及び就任のあいさつ

事務局

委員長、副委員長の推薦をお願いします。

委員

私の方から推薦という形で発議させていただきます。委員長の方ですが、前期の委員長で、計画策定にも精通されております下垣委員を委員長に推薦したいと思います。また、副委員長には同じく前期の副委員長を務められました小滝委員に、引き続き、お願いできればと思い、推薦させていただきます。

事務局

ご推薦いただきましたが、よろしいでしょうか。

－ 一同拍手

事務局

ありがとうございます。

承認をいただきましたので、下垣委員長、小滝副委員長に就任のごあいさつをお願いいたします。

委員長

先程市長のお話にもありましたが、高齢者の方ができるだけ清瀬に住み続けたいと思えるための計画をと思っております。財源も限られた中で、清瀬の良さを最大限にいかせるような計画策定になるよう、微力ながらお手伝いできればと思っています。委員長とはまとめ役みたいなものかと思いますが、皆さんの支援の中でやって行きたいと思いますので、よろしくをお願いします。

副委員長

サービスを提供させていただく中で、課題が複雑かつ多様になっていて、掘れば掘るほど、頑張れば頑張るほど、新たな課題が出てくるという状況で、どれくらいのサービスが提供できれば満足してもらえるのか頭を痛めています。とはいいいながら、介護保険料の問題や財政の問題もあります。更には人材不足の問題、働き方改革により厳しい状況が続いています。事業所にとっても頭の痛い問題が続いている中で、第8期を考えていかなければならないので非常に悩みながら進んでいくと思います。具体的かつ現実的な計画になるようお力になればと思いますので、よろしくをお願いします。

7. 議題

【報告事項】 高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画の概要および清瀬市の介護保険の状況について

－事務局より、資料3・4をもとに説明

委員長

何かご質問などありますか。

委員

介護認定の件数について、平成30年度で低くなっている理由として、(認定有効期間が最長)12ヶ月から24ヶ月になったためとのことでしたが、それでよろしいでしょうか。

事務局

はい、そうです。

委員

ということは、(認定が必要な方の人数が)減っているわけではないですね。

事務局

省令の改正がありまして、総合事業を開始した自治体に対して、更新申請が今までの12ヶ月から事務負担の軽減のため24ヶ月に延長されました。平成30年度は減りましたが、その跳ね返りとして、今年度はかなりの数が見込まれています。

委員

人口動向について、高齢者の人口の推移は載っていますが、労働者人口の減少が非常に問題になっていて、清瀬市ではどんな状況ですか。

事務局

今手元にないので、あるようであれば改めてお示ししたいと思います。清瀬市の地域特性だと思いますが、高齢化がかなり進んでいる状況です。高齢化率でみると、今年の1月1日付で、多摩26市のうち5番目に高くなっています。病院や団地が多く、都営住宅もあり、昭和30年代から40年代にかけて建てられた住宅も多いこともあり、高齢化が高い状況の中で、労働人口については他市に比べると、条件としてはよろしくないと思っています。

事務局

補足ですが、清瀬市では第4次清瀬市長期総合計画を立てていて、そこでは一定の基準に沿って、清瀬市の人口体系を出していて、令和2年度までは人口が増えるが、令和7年度には減少に転じるという推計で、生産年齢人口については、平成42年度までは6割を維持するが、それ以降は5割台まで落ちます。人口が減っていく中での割合ですので、生産人口についてはかなり減ってしまうと懸念しています。

委員長

労働人口というよりも、人口動態として20代～30代の転出が多く、子育て世代だと、ある程度の年齢になると転出してしまいがちなのが清瀬の課題だと思います。

事務局

まさにその通りで、清瀬市の課題は、子育てしやすいまちを目指していて、子育てのしやすいうちは清瀬にいるが、その後、結婚や大学で転出する傾向が高いのが実状です。地方の子どもを清瀬に呼び寄せるために、家賃補助を行うなど、施策としてはありますが、結局は人口の取り合いで、清瀬が増えればどこかが減ることになるので、一義的な解決にはな

るかもしれないが、大きな視点で何かしないと日本全体が下方に向かってしまうことなので、課題としては捉えています。有効な手立てはまだ見つかりません。

委員長

85歳以上の認知症の出現率は10%をはるかに超えて、人口の分析を考える時に、必ず75歳以上ではなく、85歳以上の分布や予測を見ていないと、介護保険の状況に与える影響も、85歳以上の方の利用状況や給付の状況も明らかにしないと、将来的な予測が立たないことと、今度、認知症に関する基本法が国会に出て、おそらく通ると、次の計画策定では、認知症施策を明確に出していくことを求められると思うので、第一号被保険者の85歳以上のパーセンテージも出していき、介護保険の利用実態等も分析していかないといけないことと、これはどこも出来ていない話ですが、圏域での差もあると思うので、きめ細やかな計画を立てようとすると、色んなところの地域特性の介護保険の状況等も、今後分析したり、市内の地域を意識したこともやっていかないと、実態と離れた計画になってしまうかもしれません。

他に何か質問や意見はないですか。もしすぐに出てこない場合は、次回までに準備していただくか、事務局の方に事前に出していただければと思います。

【検討事項】アンケート調査の調査項目について

－事務局より、資料6、事前配布資料1をもとに説明

委員

アンケートの設問の中で、どの設問が国の設問で、どの設問が独自なのですか。

事務局

説明したのは全て独自項目です。参考資料として事前に配布した①②③に7期の策定の時に清瀬市が実施した調査票になっていて、必須項目が載っています。

委員

初めてで分からないのですが、アンケートの調査の中には、地域が細かく載っているのですが、冊子の中には、平成28年度の結果が載っていないのですが、地域別の結果を知りたいのですが、どうなのでしょう。

事務局

手元にある紫色の冊子は計画書で、今回行うアンケートの結果については、別に調査の報告書があり、その中に、各地域ごとの集計を行うことは可能です。

委員長

前回の調査結果をどう見るのかも重要ですが、今回の調査をする際に、地域ごとの違いがあるのかどうか、分析をきっちりした方がいいということですね。入口で地域が分かっているのに、項目で地域差があるのか分析できるので、これからの調査でしたらどうかという提案ですね。

事務局

集計に関しては、今回地域計画株式会社に支援をお願いしていますが、地域ごとにクロス集計という形で、地域ごとの差を見つけるような集計をすることは可能です。

委員

事業所として一番関心があるのは、介護職員等特定処遇改善加算についての調査で、一番話題になっているのは、特定処遇改善加算の取り方が大問題で、10月から大騒ぎになるのではと言われていて、調査の時期との兼ね合いがあるかもしれませんが、そちらも取らないと片手落ちだと思います。

事務局

特定処遇改善加算について、アンケートは10月に予定しているので、入れることは可能だと思いますので検討します。

副委員長

市内の事業所にむけたアンケートで、「過剰になっているサービスはありますか」という設問がある一方で、「不足しているサービスはありますか」という設問はないのですが、どのような意図があるのですが。もう1点、介護人材の確保の件ですが、現状の調査はしているが、どのような要望があるのかということが、このアンケートで浮かび上がってくるのか疑問を感じたのですが、どのような考えか教えてください。

事務局

不足については前回の設問にあるので、そのまま活かす状況です。逆に過剰については、需要と供給というバランスの中で、今後過剰になる事業も、もしかするとあるのではということで入れてみました。要望については、事業所運営でお困りの事や課題になっていることについて、前回の調査でも入れていて、今回も入れる予定です。自由記載欄を設けていて、意見を伺う設問も入れる予定です。

委員

事業所アンケート調査で、ターミナルケアの対応をどのように考えるかということですが、ターミナルケアといっても、在宅や施設での看取りをクローズアップさせています。例えば、あなたの施設で看取りができますかとか、看取った経験があるか、1年で何人看取ったか。

あるいは在宅の場合、看取りの体制があるか、今後どのように体制を充実させていくのか、そういうところをきちんと聞いたらどうか、看取りを充実させる方法を聞き取った方がいいと思います。それから介護予防のニーズの虐待について、虐待を防止するためにどんなことが必要ですかと、要支援の人達に聞いても難しいと思います。むしろ自分が虐待を受けていると感じたことがありますかとか、現在の清瀬市の虐待の実態が浮かび上がってくるような、そういう質問(虐待を受けたことがある→「大変ある」・「全くない」・「少しはある」等、5段階くらいに分けて質問)すると、清瀬市での虐待の現状が出てくると思います。場所もクロスで分かってくるので、対策にもつながってくるかもしれない。また知人が虐待を受けているかもしれないと思った時に、連絡する場所を知っていますかとか、連絡をして助けを求めようと思いますかとか、もう少し本人の立場に立った質問をすると役に立つと思います。あとは孤独の問題を清瀬市では今後どのように対応していけばいいか、非常に大切な問題です。独居や高齢者夫婦世帯が増えるので、寂しさ、孤独さを感じたことはあるか、5段階くらいで評価して、助けを求め手段があるか、誰かに連絡することができるのか、そのようなことで孤独死を防ぐことができます。助けを求めることが少ない地域には、孤独死があるのではないかな等色んなことにもつながってくるかもしれません。電話連絡を自分でできるか、耳が遠くて電話も出来ない人も多いので、例えば妻が階段から落ちて、夫は耳が遠くて電話が出来ず、半日以上ほったらかしだったというケースがありました。何かあった時に自分で電話が出来ますかというような、具体的な質問をすると、清瀬市の実態が浮かび上がって、どれくらいの高齢者がどのように悩んで、どんなところにポイントを置いた施策が必要なのか見えてくると思います。

孤独対策を清瀬市でやっていくと100歳まで元気に過ごせると思います。

委員長

今のお話は、項目の作り方や表現が当事者の目線になっていないのではというところが一番大きいと思います。行政評価のような言葉の表現になっていて、例えば認知症の人が答えるという目線に立って、その方が何を困っているのか、基本調査ではなくて、ここだからこそ聞けること、深められることを、虐待も含め、表現や項目を考えた方がいいと思います。自分の専門のところでは、認知症施策推進大綱で5本の柱が出ているので、それに関連する部分をちゃんと聞いた方がいいと思います。パートナーの話や、寄り添ってもらうことをどのような人に期待しているか等を聞いてみる。また、孤立や孤独の話をもっと突っ込んで、何をしたらいいのか手がかりをつかめるような項目があるといいと思います。居場所に関しては清瀬市の地域特性に踏み込んだものが入っていた方がいいと思います。アウトリーチでやっている清瀬市独自の調査があるので、それをうまく活かしたらいいと思います。

委員

アウトリーチについて、医療介護連携推進委員会でやって、1つの症例を発表して、それを基に清瀬市がアウトリーチ事業を立ちあげて、その結果も聞いて、本当に素晴らしいと思いました。先日もかかりつけ医の研修で、国立市がいかに施策をやっていくかということで、やはり症例を中心にやるんだ、このケースについてどのようにアウトリーチしていくかということが柱になって、政策を決めていくという話でしたが、私も往診に来てくださいと言われたので行くと、死亡寸前で、褥瘡が15センチも仙骨部にあって、血圧も低く、その日に亡くなってしまわれましたが、精神疾患をもった介護者が母親を看っていて、介護保険も申請していませんでした。施策の穴というか、何故このような症例があるのかということで、アウトリーチをしていただいたのですが、そのような実践はとても大切です。そういう家庭にこの質問がいくわけです。その際に、自分もこんなことで悩んでいるとか、介護される本人が、褥瘡ができるまで放置されるわけですから、誰も自分を助けてくれないと返事があるかもしれないので、実態が見えてきて施策につながるかもしれません。

委員

アンケートについて、1つ1つの項目について、独自に調査するのであれば、アンケートの結果が何かしらの目標を持って、何かにつなげるものでないと、有効化されないと、とても感じます。先程委員から地区ごとの統計は出ていないのかという質問がありましたが、例えば最初の日常生活圏域ニーズの調査の要支援1・2の方の地域活動の項目に関して、地域活動にどんなきっかけがあれば参加したいかという項目があるのですが、地域の近くに活動する場所があるかどうかという項目があり、その次に続く設問であると感じます。それを地区ごとに調査した結果によって、地域に活動する場がなければ、それをコーディネーターの活躍の場につなげたり、アンケートの結果が反映されるものがなければ、アンケートの意味がないと感じます。東京都等から忙しい時期に、山ほどのアンケートが届き、結果が冊子になって届くのですが、それが一体何のために使われているのか、どう反映されているのかという結果までは載っていないのが実状です。例えば、地域活動のところの4『地域活動のために今後必要になるもの(場所・資金等)』とありますが、選択肢に資金の選択肢がないと思います。場所ばかりで、自由記載もないです。あと、健康の7のところ『かかりつけ医がいるかどうか』は、医者にかかっていない方もいます。先程のアウトリーチの話の中でも、医者にかかったことがないという人もいました。そういう選択肢があるのではないかと思いました。アンケートの結果を何につなげていくのか、そこを明確にしていきたいと思います。次のページの看取りについてですが、患者さんの立場になって、アンケートを受ける人の立場になって、設問を読んでも、『治る見込みのない病気になった時、どこで最期をむかえたいですか。』という文言がひっかかります。例えば、『入院・入所の際に身元引受人はいますか。』とか、権利擁護でも、入院時の同意ができない、保証人の問題があ

るので、そういったところにもつなげていけると考えます。あとは、ケアマネージャーに対する満足度4の項目で、満足度を吸い上げるのであれば、選択肢にその他の項目をつくって、利用されている方から直接声を吸い上げるいい機会になると思います。先ごろ、ケアマネジメントの質の向上を目的に、居宅介護支援事業所に主任ケアマネが置かれる制度になってきています。そういったところにつなげられる項目だと思います。9の設問では虐待の設問で、選択肢の中では拾いきれないところがあります。虐待については、身体・経済・心理的等、様々な種類分けがあり、虐待の項目に分けると、この選択肢の中では、答える側からすると難しい選択肢になると思います。この独自のアンケートの最後の3の部分は、法人に向けてのアンケートになっていますが、私は包括支援センターの職員として従事していて、今一番つらいと感じているところは、要支援 1・2の方が前年度に比べて人数が増えているところです。居宅事業所においては、介護予防のプランを持っていただいているのですが、予防に関してプランを持っていただくのは増えない状況で、包括としては苦しいところです。前年度の介護支援専門員の合格者数が30%を超えないところですが、東京都では約500人が介護支援専門員として合格者が出ています。その中で、介護支援専門員の受験資格として5年以上ある一定の職種で従事しなければいけないというのがあり、5年も従事していると、合格したからと言って、ケアマネージャーをしようという人は少なく、アンケートを取ると、ケアマネージャーをやりたいという人は7人中1人の割合で、東京都内で62市区町村あり、それを振り分けると1名しかケアマネージャーがプラスにしかならないということです。資格を持っている人が、例えば定年退職をして、ケアマネージャーになろうかという人が、新たに支援専門員として従事する以外は増えていかないと思います。もし独自のアンケート調査ができるのであれば、居宅事業者の状況をアンケート調査して、今後の予防・総合事業のプランが、どのような形になっていくのか、要支援 1・2の認定を受けた、またはチェックリストで総合事業になった人のプランを賄っていけるのかといったところを、調査していただきたいと思います。

委員

より現実的なアンケートというところと、具体的に取組みに活かせるという視点で、何点が申し上げます。生きがいづくりについて焦点を当てていきたいという説明がありましたが、生きがいづくりに関して言えば、もう少し具体的な設問や項目があればいいと思います。最近ボランティアをしたいという相談として多いのは、本当は就労がしたいという方が多くいます。私共は就労につなぐところではないのですが、70歳以上でも雇用したいという情報を知る限りの中で、情報をつなぐ場合もあります。生きがいづくりでは、身近な人間関係というものあれば、最近増えている話では、高齢者のペットの問題で市民活動団体と関わる機会が増えています。ひとり暮らしの高齢者の方の施設入所等に伴い、残されたペットの対応について関わる場が増えています。生きがいのところにも、ペットという項目があると、高齢の

方もペットに絡むリスクの問題もつかめてくるのではと考えています。逆にこの項目は知らないのではと思うのが、認定なし、要支援 1・2 の方向けの地域活動の 4 番の項目で、公共施設の充実であったり、サポーターの養成というのがありますが、これは既に活動をしているリーダー的な層の方は、その辺りの課題認識を持っていますが、個人でやりたい人と、団体でやっている人との設問項目が混在していると感じています。団体向けについては、私共の方でもニーズ調査をしていますので、そういった意味では活かせるのではないかと考えています。それから人材確保のところですが、現状ではこういうことで困っている、こういう工夫をしているということに加えて、こういう取組みが欲しいというのがあれば良いと思います。社会福祉協議会では 10 年くらい前に、福祉人材フェアというのを実施したことがあります。最初の年は 80 人くらい来場して、就職に 5、6 人決まりましたが、やっていくうちに来場者が半減して、現状見合わせています。人材養成の講座等も、他地域では事業所と社会福祉協議会が共同で行っていますが、こういった取組みがあると、一步でも前進するのではないかなというような、事業所の意向というのが聞けるといいのではと感じています。

委員

看取りについての調査項目で、どこで最期をむかえたいかという調査は、非常に必要であると思います。でも現状はどうか、現状とのギャップもあると思います。8割ぐらいの方が家で看取ってほしいけど、現状は 10%台である場合、例えば自宅で看取るにはどうしたらいいのかというのを施策としてやっていくための情報として、「家で最期をむかえたい場合に頼める医療機関を知っていますか。」とか、そうすると、ほとんどの人が知らないとか、もっと情報を発信しようとか、具体的に介護と医療がどのように連携すればできるのかという知識を講演等で教えた方がいいのではないかなとか、そのような施策につながるような質問を入れたらどうかと思います。そして3の方でも、施設で看取る体制をつくりたい、あるいは在宅での看取りをもっとやっていきたいという事業所があったとしたら、それに対して、何を一番必要と感じるか、どのようなサービスが清瀬市にあれば可能かということを入れたらいいと思います、例えば私共は在宅で看取りをしていますが、一番困るのは独居の方です。家で最期をむかえるためには、夜間巡回型で入ってくれる訪問介護事業所が清瀬市にあれば、もっと在宅での看取りが進みますが、あまりないので増えてほしいと個人的には思っていますが、この目的のためには何が一番必要かと、各事業所は感じているのかを洗い出せるような質問をすれば、次の展開につながると思います。

委員

確認ですが、前回のアンケートの回収率は何%でしたか。

事務局

前回は、ニーズ調査が 64%の回収率で、在宅調査に関しては 45%でした。

委員

もう少し上げたいですね。かなり細部に渡って聞かれると、聞く方も疲れるし、聞かれる方も疲れるので、メリハリをつけないと、これも聞きたい、あれも聞きたいとすると、かなり厳しくなるので、もう少し煮詰めて聞いた方がいいと思います。

委員長

今日で決着がつくことではないので、お気づきのことを事務局へ指摘してもらって、整理をする作業に入らなければいけないと思います。確かに質問がやたら増えてもいけないですが、せっかく聞くことなので、具体的にした方がいいし、表現も当事者が答えやすいようにするなど、検討の余地があると思います。私や副委員長で、またそれをチェックしたいと思いますので、是非皆さん、積極的に事務局に伝えていただければと思います。

8. 次回委員会の開催予定について

事務局

貴重なご意見をいただきありがとうございます。今回の独自質問は、かなりたたき台的なものになっています。皆様から色んなご意見をいただき、非常に助かっています。また、今日の議題に関しては、1時間弱程度しか見てもらえる時間がなかったので、今後何かあれば、事務局の方に連絡いただければ検討して参ります。また、範囲を広げすぎると回答率が下がるという部分もあるので、ポイントを絞りながら設問を検討していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

最後に次回の開催予定ですが、第8期計画策定については、国のスケジュールがまだ固まっていない状況ですので、具体的な日程を今の段階で設定するのが難しいのですが、10月下旬頃に、今現在進行中の第7期計画の進捗評価を諮らせていただきたいと思います。そのタイミングで、もう一度アンケートについても話ができればと思います。日程が決まり次第開催通知を送らせていただきますので、よろしくお願いします。お忙しい中時間調整するのは難しいと思いますが、ご協力よろしくお願いします。

それでは、これで本日予定していた議事はすべて終了いたしましたので、これで第1回評価策定委員会を閉会いたします。本日は長い時間お疲れさまでございました。ありがとうございました。